

大豆の収量が少なくなる主な3つの原因について、対策技術を開発しました。生産現場で抱えている課題を省力的に解決します。

研究成果の概要

1 背景・目的

青森県産大豆は豆腐などの加工に向いており、加工業者からの評価は高いのですが、毎年の収量が不安定であることが課題となっています。

大豆の収量が少なくなる原因は、①雑草、②病害、③地力低下が大きく影響するため、これらの対策技術の開発に取り組みました。

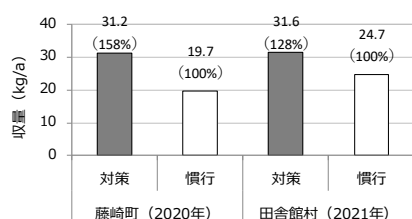
2 内容

①難防除雑草対策技術

現地で問題となっている「ツユクサ」対策を開発しました。



収穫前の雑草発生状況



収量の増加程度

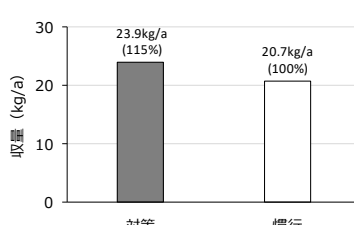
大豆の播種方法や除草剤の使用方法を改善することで、雑草の発生が抑えられて収量が増加しました。

②病害対策技術

現地で問題となっている「黒根腐病」対策を開発しました。



黒根腐病の発生状況



収量の増加程度

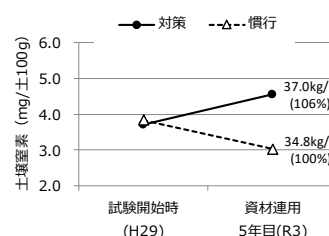
大豆6葉期から開花期までの間に液状亜リン酸肥料を散布することで、黒根腐病の被害が軽減されて収量が増加しました。

③地力低下対策技術

現地で問題となっている「土壌窒素」低下対策を開発しました。



堆肥とその散布状況



土壌窒素と収量の推移

化学肥料を一般的な農機で散布が可能な堆肥に代えることで、地力が維持されました。

3 活用等

研究成果は「令和4年度指導参考資料」として、大豆の生産指導に活用されています。

関連情報

・各対策技術の詳細については、下記URL・QRコードを参照してください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/hukyuugijutu_hatamokuji.html

